

第373回
日本泌尿器科学会新潟地方会
《プログラム》

日時：平成27年3月14日（土）午後3時00分
会場：イタリア軒 5階 『春日の間』
新潟市中央区西堀通7 025-224-5111

次回 第374回新潟地方会予告

期日：平成27年6月27日（土）

会場：穂高ビューホテル（予定）

（信州・山梨・新潟合同地方会）

演題申込期限：平成27年4月下旬

※ PC発表のみです。

※ 口演時間は、1題7分。討論3分（時間厳守）

日本泌尿器科学会会員証を必ずご持参下さい。

951-8510 新潟市中央区旭町通1の757
新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野
日本泌尿器科学会新潟地方会
TEL：025（227）2289／FAX：025（227）0784

1. 精索平滑筋肉腫の1例

新潟大学大学院 腎泌尿器病態学分野

晝間 楓、瀧澤逸大、笠原 隆、原 昇、谷川俊貴、西山 勉、富田善彦

症例は39歳男性。半年前に左陰嚢内に小豆大の硬結を自覚し、徐々に増大傾向にあるため近医を受診、当科紹介となった。左陰嚢上部に小鶏卵大の硬結を触知し、CT検査では精巣と近接した4cm大の境界明瞭で不均一な造影効果を示す腫瘍を認め精索腫瘍が疑われた。全身検索では転移を疑う所見はなかった。左高位精巣摘除術を施行し、腫瘍を精索・精巣と一塊に摘除した。病理診断は精索平滑筋肉腫であった。若干の文献的考察を加えて報告する。

2. 新潟大学医歯学総合病院泌尿器科における2014年手術統計

新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎泌尿器病態学分野

丸山 亮、風間 明、笠原 隆、小原健司、齋藤和英、谷川俊貴、西山 勉、富田善彦

手術室での手術件数は422件、密封小線源療法(LDR)は7件、高線量率組織内照射療法(HDR)は40件、金マーカー挿入(強度変調放射治療IMRT)は3件であった。2014年2月17日にda Vinciによるロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術(RARP)の1例目を施行し、2014年に25例を施行した。2013年まで施行してきた腹腔鏡下前立腺全摘除術(LRP)は、ほぼ全てRARPに取って代わり、今後も増加が見込まれる。

3. ドルニエ社製低出力レーザーでのHoLEP術施行13例について検討

済生会新潟第二病院 泌尿器科

森 望美、吉水 敦、車田茂徳、伊佐早 悦子

当院ではこれまで低出力レーザー(ルミナス社製)での前立腺核出術が安全に施行できることを報告してきた。今回、ドルニエ社製の結石治療用の低出力レーザー(最大出力30W)を用いてHoLEP術を施行したので、その成績について報告する。ドルニエ社製レーザーを用いた13例とその直前に行われたルミナス社製のレーザーを用いた13例を比較検討した。両群間に年齢、推定前立腺容量に有意差はなかった。結果、核出した腺腫重量、手術時間、推定出血量に関して両群間に差がなかった。また術後の排尿状態についても両群間で差がなかった。低出力レーザーによる前立腺核出術は、機械に関わらず安全に施行でき、また治療効果も十分得られることがわかった。

4. 当院における前立腺癌に対する手術症例の検討

長岡中央総合病院 泌尿器科

山崎裕幸、秋山さや香、鳥羽智貴、山名一寿、糸井俊之、高橋英祐、西山 勉、照沼正博

1992年3月より2012年12月までに前立腺癌の診断で全摘除術を施行した158名のうち、術後3か月以上経過観察が可能、かつAdjuvant・Neoadjuvantでのホルモン療法未施行の107名につきRetrospectiveに検討した。年齢中央値65歳、診断時PSA中央値7.70ng/mL、Gleason Scoreは6以下46例、7が32例、8以上が26例、臨床病期はcT2a以下が92例、cT2bが7例、cT2c以上7例であった。術後、生化学的再発を44例に認め、癌死1例、他因死は6例であった。PFSに影響を与える因子として、多変量解析ではGleason Score 8以上、cT2c以上、PSA density ≥ 0.4 、PSA nadir ≥ 0.03 が有意であった。

15:40～16:20

座長 小林和博

5. Xp11.2 転座型腎細胞癌、当院の3例の経験

新潟県立がんセンター新潟病院泌尿器科¹、病理部²

ビリーム ウラジミル¹、鳥羽智貴¹、小林和博¹、川崎 隆²、斎藤俊弘¹、北村康男¹

1996年にXp11.2転座/TFE3融合遺伝子関連腎癌は初めて発表された。転座型腎細胞癌は小児患者には20-40%を占めるが、大人に稀な組織型である。悪性度は低いとする文献と高いとする文献があり、予後に関しては意見が分かれている。組織型は乳頭状と淡明細胞癌に類似しているため組織診断は困難な症例もある。2004年のWHOの腎腫瘍分類及び腎癌取り扱い規約第4版(2011年)に腎実質の上皮性悪性腫瘍の一種として採用された。

最近、我々は転座型腎癌3例経験した。遺伝的な特徴、組織学的な特徴、臨床の経過を考察する。

6. 尿管 MALT (mucosa associated lymphoid tissue) リンパ腫の1例

新潟労災病院 泌尿器科 羽場知己、山口峻介、小池 宏

症例は71歳男性。腎機能の軽度低下のために、当院内科で経過観察中であった。MRIで右腎盂の拡張を認め、2010年1月に当科紹介となった。初診時の検査では悪性腫瘍の確定診断には至らなかった。経過観察中に右尿管の狭窄が進行したため、右尿管癌と術前診断して、2014年7月に全身麻酔下で右腎尿管摘除術を施行した。病理組織診断はMALT (mucosa associated lymphoid tissue) リンパ腫であった。尿管原発と考えられるMALTリンパ腫の1例を経験したので、若干の文献的考察を加えて報告する。

7. 尿細胞診新報告様式に関する動き

新潟県立がんセンター新潟病院病理部 川崎 隆

尿細胞診の診断基準は地域間・施設間によりまちまちで、報告様式も一定してない。また、規約改定で尿路上皮癌の異型度分類は2段階となった。このような現状を踏まえて日本臨床細胞学会では、2012年に診断基準を含めた尿細胞診の新報告様式の作成を始めた。2014年に示された最終案は4段階記述方式で、高異型度尿路上皮癌の出現確率がそれぞれのカテゴリーで示されている。今後日本泌尿器科学会で周知が図られる予定である。

8. 平成25年度新潟県前立腺がん検診結果と主要地域別の年次推移

新潟県前立腺がん検討委員会

小松原秀一、西山 勉、波田野彰彦、斎藤俊弘、森下英夫、羽生修吾、
片山靖士、片桐明善

平成25年度は検診対象者数195,724名、受診者数(率)32,292名(16.5%)、要精検者数(率)2,537名(7.9%)、精検受診者数(率)1,935名(76.3%)、がん数187名発見率579.1(人口10万対)、早期がん割合66.3%であった。がん数は70-74歳55名、65-69歳41が多く、早期がん割合もこの年齢層で多かった。県内主要地域別の結果についても報告する。

16:20～16:40

【日本泌尿器科学会新潟地方会総会】

[休 憩 16:40～17:00]

サテライトセミナー

日 時：平成27年3月14日（土）

17時00分～18時00分

会 場：イタリア軒 5階『春日の間』

17時00分～17時10分

〈情報提供〉

「ランマーク皮下注120mgの最新情報について」

第一三共株式会社

【特別講演】

17時10分～18時00分

司 会 新潟大学大学院 腎泌尿器病態学・分子腫瘍学分野

教授 富田 善彦 先生

「日本人の進行性前立腺癌患者をどのように診断，治療すべきか考える」

東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科

腎泌尿器外科学教室 准教授 藤井 靖久 先生

共催 日本泌尿器科学会新潟地方会

第一三共株式会社

※ 記念撮影終了後、3階「サンマルコ」にて祝賀会となります。